

Acromyrmex octospinosus

(Reich, 1793)

トゲがあってざらついた体のハキリアリで、バラやブラックベリーの葉で菌を育て、葉と同じくらい熱心に花や果実も切り取ります。



写真：Elias Freyhof (eliasfrehhof36614), CC BY 4.0



ひと目でわかる情報



巣の温度
23-27 °C
巣の中



巣の湿度
80-95 %
巣の中



休眠
不要



結婚飛行
5月 - 7月
雨のあと



働きアリ
2-9 mm
大型働きアリは最大12 mm



女王
12-14 mm
女王は1匹



コロニーの規模
働きアリ20,000匹規模
成長速度：速い



脱走リスク
高い
脱走の名人です。密閉したアウトワールドと、しっかりした脱走防止の対策を用意しましょう



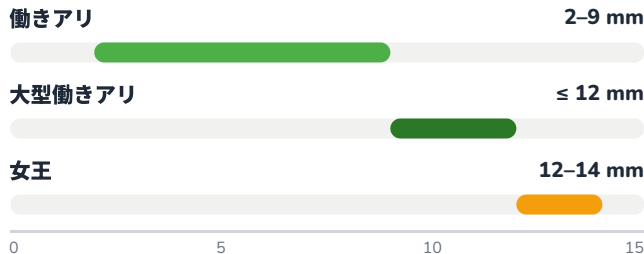
1年をひと目で



この種の実産地での月です。正確な日は天気で決まり、室内で飼育しているコロニーは別のリズムになることがあります。



同じ縮尺での大きさ



飼育の早見表

食べ物

新鮮な葉

砂糖

おすすめの巣

1. アクリル製の巣
2. 自然再現型のセットアップ

この評価の理由

- ✓ 休眠の管理が不要です
- ⚠ 本格的な脱走の名人で、脱走を完全に防げるセットアップが必要です
- ⚠ 半閉鎖型：創設中の女王に餌を与える必要があります
- ⚠ 毎日新鮮な葉を与える菌園が必要です
- ⚠ コロニーが巨大になるため、広げられる余裕が必要です



飼育者からのメモ

ヒント

菌園は小さなフードの下に置き、湿度はコロニー自身に調整させましょう。空気が乾きすぎると、働きアリは見つけられるいちばん湿った場所へ菌園を運んでしまうことがあります。ある飼育者の湿度計が気づかぬうちに故障したときは、菌のほとんどが給餌エリアの湿ったバラの葉の下に移されていました。湿度計は2つ目の湿度計と照らし合わせて確認し、温めるのは菌園そのものではなく、セットアップの周りの空気に行きましょう。

注意

薬剤を散布された花が1輪あるだけで、小さなコロニーが壊滅することがあります。旅行先で摘んだバラを与えたあと、働きアリはじっと動かなくなったり砂糖水でおぼれたりして、コロニーのほぼ半数が死に、菌も縮んでしまいました。使うのは、薬剤処理されていないと分かっている植物だけにしましょう。